

暮らす世帯が増えていま
す。お年寄り向けの住ま
いや介護施設にはどんな
種類や課題があるのです
か。お友達が「サ高住」と
いう賃貸住宅に引っ越し
ました。聞く價れないけ
どんな所からしたら、
始まつた「サービス付き
高齢者向け住宅」のこと

60歳以上の人対象で、パ
リアブリー構造。日中はケ
ア専門家が安否確認や生活
相談をする法律で義務づ
けられています。介護は標準
のサービス

「有料老人ホーム」とい
うのは、民間業者など
が高齢者を入居させ、食
事受けられ、介護保険で

支え合いで、活発な団体も

約100人に増えた。

会員の平均年齢は約7
7歳。子供たちが集まつ
て夫婦2人暮らしの世帯が
多い。1人暮らしの会員は20
人で、うち9割が女性だ。

庭木の処分や家屋の修繕が
できない

など不便を感じながら暮
らす会員の声を聞き、前

会長の谷中正敏さん(8
3)が呼び掛け、会社

員、技術者など多様な人

生経験を積んだ会員9人
が「お助けマン」として

集まつた。依頼は月1回

程度で、雨どいの補修、

蛍光灯の取り換えなどさ

まざま。自力では難しい

が、介護保険も使えない

作業を手伝つてもらえる

と好評だ。

「顔見知りのお助けマ

ンなら自宅に入つても

礼としている。

「お助けマンの会」の

谷中さんは、「頼りにさ

りがいがある。会員同士

が仲良くなれる。会員が

い」と顔をほころばせ

る。谷中さんは、「頼りにさ

しゅうねん

皆が一丸になつたおかげ

2百人が訪れ賑やかに

サンミゲル・パウリスタ日本体育協会(美甘重会長)の「創立60周年記念式典」が21日に行なわれた。来賓には今月初旬の市議会選で再選を果たした野村アウェリオ市議らが出席し、欠席した安部順二連邦下議から頂かつた連邦議会からの記念

プラツカが文協に贈呈された。式典後には、演芸会も開かれ、賑やかに晴れた日の祝われた。

天竜太鼓盛り上げる

として1952年に発足した。54年には会館を建設、会員数のピークを

迎えた65年には12

40家族の会員を誇った。現在は約150家族で活動を行っている。

先没者への黙祷の後、

両国歌者唱に加え、同

地区の歌が流された。続

いて挨拶に立った美甘

会長は「先人の功労のお

かげで今があるのは間違

いないが、立派に今でも

会が成り立っているのは

ここにいる皆が一丸にま

とまつて頑張ってきたか

らった」と会員の労をねぎ

らました!」と述べた。

皆さん、よくおいで

くださいました!」と

ある。入場・駐車場代

無料。

今年も40軒余りの店

が生活用品、文房具、

玩具、食料品など、国産

商品を販売する。食堂で

は婦人会員が腕を振るつ

てうどん、ヤキソバ、

春巻き、寿司、つきさて

の餅などを準備。会場の

元気に挨拶したのは、

小渕民雄実行委員長。

0周年記念誌の発刊から

10年が経ったことに、

時間が流れ早さを感じ

ると語るとともに、70

周年を見据え、会員のさ

まりに入れば、先輩たち

はあくまでブラジルに

忠誠を誓ふ』を挙げ、

『この美しい言葉を決し

て忘れず、後世にしつか

りと伝えることこそ我々

一世の役目。この年にな

るまで生きていられるこ

とに感謝しながら、自分

の役割を全うしていった

い」と謝辞を述べた。

式典後に行われた演

芸会では、カラオケや民

謡、踊りなど24の演目

が演じられた。中

でも、今年7月にあつた

父とともに長く文協の

演技後には観客総立ちで

の拍手が沸き起こった。

皆さんは「私たち一家にとって

伝達・普及のためにま

も大切な場所。日本文化

理学的变化を記録する

巷で議論を巻き起こして

いる。当地メディアによ

るところによれば、

トサル日本代表に選ばれ

た、カズコと三浦知良

が、両国のイメージを下

げようとしていた。

5歳でお退役選手とい

う稀有な存在。これから大

きな存在になるのでは

と賛辞を贈ったとか。

4

月に至るまで句を詠み続

けた。まだ戦術に慣れ

たばかりの伯国と対戦、

国际親善試合でデビュ

ーとして、まだ戦術に慣れ

たばかりの伯国と対戦、

国际親善試合でデビュ

